

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 津商業高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		商業教育を通じて、「創造力」・「協調性」・「知恵」を持った人材を育成し、地域社会に貢献する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学び、自ら考え行動し、自らの社会的役割に向け努力している。</li> <li>・忍耐力、創造力、協調性を養い、自らの可能性に挑戦し続けている。</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す学校像の実現に向け、様々な場面において、情報共有と意思疎通を図りながら生徒の成長を目的とし継続した創意工夫が図れる教職員。</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; 学ぶ喜びの実感・進路希望の実現・部活動を含め充実した高校生活を送ることに期待している。</p> <p>&lt;保護者&gt; 子どもの安心安全な学校生活。学校生活全体を通じた人間力の育成及び進路希望を実現。</p> <p>&lt;地域&gt; 学校の教育力を地域に提供し、地域の活性化に貢献してほしい。地域の教育力を学校に活用し、生徒が社会に貢献する意欲や態度を育成して欲しい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p>&lt;家庭&gt; 学校情報の提供 学校行事等への参加機会の増加</p> <p>&lt;中学校&gt; 卒業生の様子、入試情報などを知りたい。</p> <p>&lt;地域企業・事業所&gt; 地域産業の担い手としての人材の育成</p>	<p>&lt;家庭&gt; 本校教育活動への理解と連携協力</p> <p>&lt;中学校&gt; 基礎学力の定着。効果的な指導を進めるために、個々の生徒の情報共有</p> <p>&lt;地域企業・事業所&gt; 生徒の生きた学習の場の確保に連携協力して欲しい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○校内での様々な取組は毎年改善が図られているものの、今後は教員が主導して進める部分を減らして、生徒が主体的に考えて取組を進められるようになることが必要。</p> <p>○授業での学習成果物を、「生徒が作った」ということを明記しPRをさらに行うなどせっかくの取り組みをうまく伝える工夫をさらにおこなうことが必要。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校周辺地域からの入学者が多い。資格取得や部活動への積極的な参加の意思を持った生徒が多い。近年は、進学志望者も増加しており就職志望と進学志望の両面での支援体制の充実が急務であるとともに、学力向上に向けたカリキュラムの検討や授業改善等についての検討を進めている。</li> </ul>	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校外への本校の取り組みの情報発信の方法が不十分である。</li> <li>・部活動も活発でいくつものクラブが県内ならず東海地区または全国規模の大会に出場し成果をおさめ学校全体の活性化に貢献している。今後国体やインターハイの地元開催も控えており、クラブ活動の充実が必要となるが、休日などにおけるクラブ指導による職員の過重労働が大きな課題である。</li> </ul>	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代の変化に応じた、商業教育の在り方を模索し、商業高校として魅力ある商業教育活動の実践（地域の商店街や行事に参加して教育活動の成果発表等）や進路保障に取り組む。</li> <li>・基礎学力の充実をもとに専門的知識や技能の取得をより一層推進するために、各教科間の連携による取り組みを進める。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の教育理念や教育内容、教育実践内容等の商業教育の魅力を中学校をはじめとして広く地域社会にPRし、理解を求めていく取り組みを進める。</li> <li>・地域社会と学校との間で「人」や「情報」の交流を増やし、地域社会からの信頼と協力を得る中で、「生きた学習」の機会を増やせるよう取り組みを進める。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)多様な学習活動や学習成果を適切に評価する評価手法の検討をおこなう。 <b>【活動指標】</b> 商業科目において、研究を進める。 <b>【成果指標】</b> 生徒のアンケート等による成果と課題の検証	昨年度から継続した取組 マーケティングの授業において、評価基準の見直しや、生徒からのアンケートによる授業の取組変化や評価に対する感想から、見直しを含めて進めることができた。	◎
キャリア教育の充実	(1)進路ガイダンスの充実 望ましい進路選択を行えるよう、内容を検討する。 (2)インターンシップの充実 インターンシップの目的を再度洗い直すとともに、生徒が主体的に進められるよう取り組む	ガイダンスの在り方、実施の時期等の検討を進めることができ、次年度の計画に反映する ・新3年生への早期からのガイダンス実施 ・進路の手引きの全面改定 ・ガイダンスの内容の全面見直し インターンシップについては、自己開拓の拡大による主体的な取組をすすめる。	
心を育む教育の取り組み	(1)命を大切にすることを育む教育の充実 自らの考え方、捉え方を見つめ直すことで、いじめ防止や命を大切にすることを育成。教科指導と連動させながら取り組みを進める。 <b>【成果指標】</b> 生徒のアンケート等による成果と課題の検証	昨年度1年次に実施した、「認知を変える」という指導の定着状況調査を実施。 アンケート方式による確認を実施 結果については、集計中	

#### 改善課題

評価手法の研究においては、評価方法についての取り組みが進み、課題改善も行うことができたが、全ての教科科目において実施にはいたっていない。今後は、新学習指導要領に対応した学習指導内容の見直しと併せて準備を進める必要があること。また、キャリア教育においても、生徒の進路選択の状況を把握し、従来の取組の更なるブラッシュアップを進めて育必要がある

#### (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組み	(1)校外の研修会・講習会等への計画的な参加 (2)教員相互の授業研究 【活動指標】(1)10名以上(2)年2回	・情報関係の指導者講習会に5名派遣 ・産業情報技術指導者養成研修に1名派遣 ・全商情報指導者研修に1名派遣 ・校内授業研究週間において、全職員の授業見学実施。	
情報提供	(1)授業、学校行事等の公開 【活動指標】年3回以上 【成果指標】参加者アンケート等での検証	・授業公開(保護者、中学生及びその保護者等276名の参加) ・アンケート調査から、津商の様子がよくわかった97.7% 進路選択の参考になった90.6%	
地域との連携	(1)地域行事等への参加 【活動指標】 授業での校外学習、部活動を含むすべての取組みで、実施5回以上	・新町フェスタへの参加 ・津商餅の商品開発、関の戸のパッケージデザインを通じての販売実習等での地域での活動 ・観音寺保育園夏祭り、運動会支援、 ・津ドライビングスクールイベント参加 ・地元自治会内での高齢者社会を考える	◎
総勤務時間の縮減	(1)年次有給休暇取得日数の増加 (2)時間外労働時間 15%削減 (3)夏期休暇及び元気・回復休暇の完全取得 (4)月1回の定時退校日実施(7月から) (5)部活動の週1回休養日の設定(7月から) 【成果指標】 (1)昨年度取得日数より1日増 (4)達成率100% (5)休養日設定100%・実施率95%以上	(1)1人あたりの平均取得日数、1.8日増 (2)昨年度と変化なし (3)夏季休暇 88.9% 元気回復休暇 44.4% (4)定時退校率 95% (5)実施率 98%  (1)H28年度比52.8%の増加 (4)定時退校日の実施100%、 (5)休養日設定100%	※
<b>改善課題</b>			
検定やクラブ活動等で週休日に働くことが頻繁であることから職員相互が時間を見つけて平日に休養が取得しやすいような職場環境を維持するとともに教職員の健康状態の把握にも努める。			

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○地域の中学生へ津商の様子・魅力がすぐに伝わるようSNSを用いたさらなる発信。 ○基礎学力の充実とともにディスカッションやプレゼンができる力を授業で身につけさせていく取組を進める。
---------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	商業教育活動は取組のレベルも年々向上しており充実してきている。今後とも新町フェスタ等に多くの生徒が参画し地域への発信を継続していくことで主体的に地域とつながり地域で活躍できる人材の育成に努める。
学校運営についての改善策	○中堅・若手教員の研修機会を充実させ指導力向上に取り組み、全体のさらなる授業力向上に取り組む。 ○国や県のガイドラインに示されたクラブの活動時間について校内で調整を図り総勤務時間の軽減に努める。